



修了証

殿

あなたは安来節
どじょうすくい踊り
入門の課程を
修了したことを
証します。

令和 年 月 日

安来節保存会 宇川流師範
さぎの湯温泉 竹葉

©KAMIPO & Chikuyou

©KAMIPO & Chikuyou

一緒に学んで 楽しく踊ろう!

安来節
どじょうすくい



安来節とは？

安来の人々に育まれた唄

安来節は島根県の代表的な民謡で、どじょうすくい唄としても全国的に広く親しまれています。十神山の浮かぶ波静かな中海をはじめ清らかで美しい風景、そして素朴な人間味あふれる、安来地方の風情から生まれました。



安来節の起源

安来節の起源は、江戸時代中期の頃と伝えられています。平穏な世の中で、民衆の間に歌舞音曲が流行しました。この頃に七七五調の歌詞で安来節の原型らしいものが歌われていたといわれています。

江戸時代後期、「安来港」は鉄や米の積出港として栄えました。当時、北前船の寄港で賑わう安来の町では、船乗り達により民謡の交流が盛んに行われ、「佐渡おけさ」や「追分節」などがよく歌われていました。それらの民謡を元に「おさん」という芸妓が、「さんこ節」として独自のアレンジで歌ったものが人気となり、これが安来節とよく似た節回しだったと伝えられています。その後、安来町に住む大塚順仙という

鍼(はり)医が「さんこ節」などを改良し、それが安来節の原形的なものといわれています。こうして安来節は、様々な民謡の影響を受けながら育っていきました。

明治初期に完成の域に到達した安来節は、出雲地方で大流行。8月の月の輪まつりでは多くの男女が共に編笠、類かむりで、面白い身ぶりで夜を徹して全町内を練り歩くなど、賑やかに楽しまれていたことが伝えられています。

明治44年には、正調安来節保存会が創立され、会長に福島豊市が就任。この頃に「渡部お糸」という芸達者な女性が、三味線の名人富田徳之助とコンビを組み、安来節の全国巡業を行ったことから、お糸一座は行く先々で好評を得て人気上昇。安来節を一気に全国区に押し上げ、安来節の黄金時代を築きました。お糸は79歳で他界するまで後進の指導にあたりました。

世界へ羽ばたく安来節

現在、安来節保存会は会長の安来市長をはじめ全国に58支部あります。約2500名の会員が安来節の保存・宣伝・普及に努めており、単独の民謡団体としては日本有数の組織です。毎年1月には唄い初め会、春のお糸まつり、資格審査会、予選会、全国優勝大会(8月15日～17日)等を開催しています。平成23年には、創立100周年を迎え、平成26年には、「安来市無形民俗文化財」にも指定され、国内のみならず海外でも公演を行う等、その活躍は益々活発になっています。



どじょうすくい踊りとは？

安来節とともに生まれた素朴で陽気な踊り

この安来節とともに生まれたのが、お馴染みの「どじょうすくい踊り」です。安来節の調子に合わせて、小川でどじょうをすくうときの動作を表現します。

特に固定した形はなくそのまま面白く踊り、自分流のアレンジも織りまぜて楽しく踊ることが大切です。動作に合わせて特にユーモラスな顔を作ることもかかせません。



どじょうすくいの起源

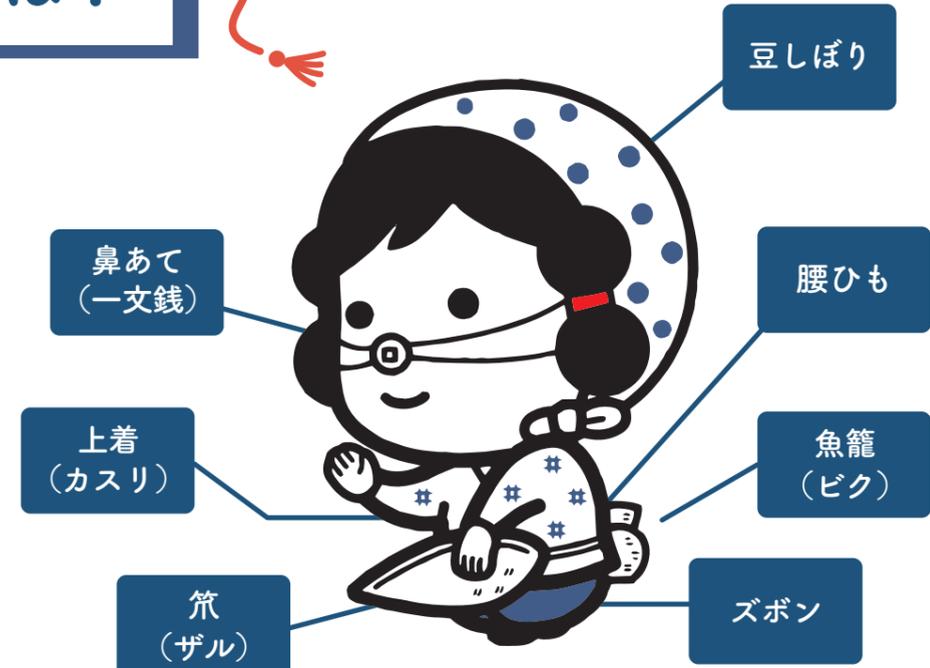
昔、安来近郷の若者たちが、どじょうを小川からすくってきては酒盛りをした。そして、酔うと必ず、どじょうをすくう時の動作をまねて踊り、みんなで楽しんだという。

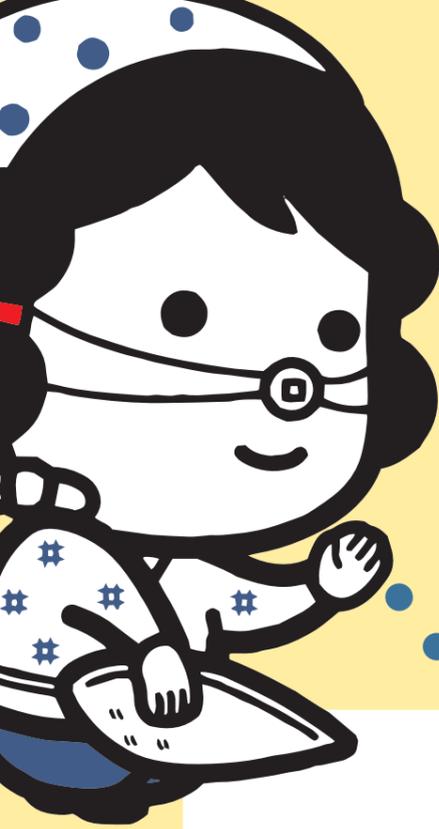


また、「わしが生まれは 浜佐陀生まれ 朝まどうからどじょやどじょ」という唄があるように、浜佐陀に住む竹内由助という人が、その動作を面白おかしく踊って見せて人気を得たという話も伝わっている。



この踊りが安来節のリズムとよく合って安来節に合わせてどじょうすくいを踊ることがだんだん広まっていった。踊りの起源については諸説あるが、一説ではたたら製鉄での砂鉄をすくう動作ともいわれている。





一緒に
踊ろう！

どじょうすくい 男踊り

《 歌 詞 》

- 唄に千両の
値ぶみがあれば
どじょうは万両の味がある
- わしが生まれは
浜佐陀生まれ
朝まとうからどじょうやどじょう
- おやどどこへ行く
腰にかご下げて
前の小川へどじょう取りに

歌詞に合わせて踊りますが、
まずは楽しんで踊ることが大切です。
踊りの中にある、2箇所の決めポーズは、
ぜひ茶目っ気たっぷりの笑顔で！
目一杯楽しんでください。



1

ふところ手をして
ザルを頭にして
腰を落とし中央に進む

スタート



2

ザルを頭から取り
前を見てにっこり笑う



3

どじょうを
さがして指をさす



4

腰を落として
どじょうを追う



5 ~ 6

どじょうをすくう動作を
2回繰り返す



7

すくい終わると
ザルの中の土を
ふるい落として
どじょうを選別する

♪ ~前奏~

おやどどこへ行く 腰にかご下げて

前の小川へどじょう取りに

で決めポーズ



8

笑顔でどじょうを
ビクの中に入れる



9

ザルの中の土を
ザルの底を
たたいて落とす



10

顔についた
土をぬぐう

4~7の動作を
繰り返す



11

どじょうが
ビクから
逃げる動作をする



12

逃げたどじょうを
手でおさえつける



13

手でおさえた
どじょうを
つかまえる



前の小川へどじょう取りに

～間奏～

わしが生まれは 浜佐陀生まれ



朝まとうからどじょやどじょ

～間奏～



ここで決めポーズ



14

ようやくつかんだ
どじょうを
ビクの中に入れる



15

ビクに入れたどじょうが
たんまりといるのを見て
嬉しそうに笑う



16

④の動作をする
足にヒルがついている！



17

これは大変！と指で
ヒルをむしりとる



18

やっと足からヒルがとれた
かと思うと今度は
指に吸い付いてなかなかとれない
すばやくって投げ捨てる



19

落ちたヒルが再び
近くにこないように
ザルで遠くに追いやる
足のかゆいところに水をかけ
つばをつける



20

ここでザルを手にして
ニコリ笑って退場する

フィニッシュ

♪ ~間奏~

唄の千両の

値ぶみがあれば♪どじょうは万両の味がある♪

